

宗岡中だより



11月号 令和元年11月1日(金)
志木市上宗岡1-8-1 TEL 048-471-2241

「アンセムで 分け隔てなく おもてなし」

校長 佐藤哲浩

東日本を塗りつぶすかのように、広い範囲に被害をもたらした台風19号の上陸から2週間がたとうとしています。死者80名以上、大雨特別警報は13都道府県にまたがり、河川の決壊は7県128カ所、土砂災害は20都県365カ所に上りました。12日の夜は宗岡地区にも避難指示が出て多くの地域住民が本校に避難してきました。幸いにも荒川も新河岸川も氾濫しませんでした。あと1時間大雨が降り続けていたらと考えると、本当に肝が冷える思いでした。未だ家屋損壊や停電のために避難生活している関東甲信越、東北地方の方々にお見舞い申し上げます。

話は変わって、9月20日から始まったラグビーワールドカップ日本大会も大詰めを迎えています。この間熱狂した日本人も多く、新たにラグビーに興味を持った子どもたちも多いことと思います。過日新聞を読んでいると、試合前の日本人のある行動が海外に感動を与えていることがネット等で広がっていることが分かりました。

その一つが試合前に対戦する両チームのアンセム(国歌)を観客も一緒になって歌おうという取り組みが広がっているのです。「日本に来てくれてありがとう」。ワールドカップ5日目、埼玉県熊谷ラグビー場では、ロシア vs サモアの試合前に熊谷市内の中学生4千人が歓迎の気持ちを表すため、スタンドで両国のアンセムを歌ったのです。この日は市内16校の生徒が参加、手作り国旗やタオルを振ったりしながら斉唱し会場を盛り上げた。生徒は本番に備え2ヶ月前から音楽の時間や給食時間に練習してきたという。選手は自国のアンセムを斉唱してくれたことに感動し、日本式の深々としたおじぎで感謝の意を示した。この感動が瞬く間にネットで広がり、事前に準備していたのかはわからないが、他会場でも観戦に来た大人までもが歌詞カードをもって、両国のアンセムを斉唱し選手をもてなしているという。



そしてもう一つは、台風の影響で13日に予定されていたB組最終戦のカナダ vs ナミビア戦が中止に。戦わずして最下位が決まったカナダは爪痕が残る釜石に残り、泥を取り除くボランティア活動に汗を流した。一方、初勝利を目指していたナミビアも滞在先の宮古市で「台風被害を受けた市民を元気づけたい」と自らファン交流会を開催した。「悔しいはずなのにありがとう」、「ラグビー精神の素晴らしさを知った」と両チームに賛辞が送られている。これで話は終わらない。帰国直前にカナダ選手が成田空港で待っていると、空港会社職員、一般の方々が数多く来て、「昨日はボランティア活動をしていただきありがとう」と、遠い釜石での活動を評価してくれた日本人の行いに、逆にカナダ選手が感動したという。今回の大会を通して日本のおもてなしを世界中に伝えられた感じがします。

「選手もサポーターも、そして国も、まさにノーサイド」

National anthem (国歌)

No side (試合終了後、敵味方関係なくたたえ合うラグビー精神)